

# 少連協ニュース

発行所 / 足立区少年団体連合協議会  
 〒120-8510 東京都足立区中央本町 1-17-1  
 足立区役所青少年課 青少年事業係  
 TEL 03-3880-5275 <http://www.a-shorenkyo.jp>

発行人 山本 輝夫  
 編集 調査広報部  
 鈴木(健) 大関 川田 小澤  
 田中 市川 高橋 川下  
 山岸 辻村 岩井 熊澤

▶富士登山 宝永火口付近で(中央)  
 グループ活動(左上) ウォークラリー(左下)



◀朝食作り(カートンドッグ(右上) 昼食風景(右下))

少年団体連合協議会の皆様には、日頃より「子どもを真ん中に」の理念の下、子どもの成育環境向上に多大なるご尽力を頂いておりますことに、心より御礼を申し上げます。

令和の新时代を迎えたこの時に、たくさんの方の出会いを頂いたことは、大きな宝であり嬉しく思うところですが、一方で、事務局としての重責に背筋が伸びる思いでもあります。

さて、町のいたる路地に子どもたちの声が響き渡っていた時代ははるか遠く、今や子どもがいる世帯は4分の1を回り、平均世帯人員も3人を割ったそうです。子ども達は、多くの人々と交流しながら様々な経験を重ねることで、将来に夢や希望が持てるようになり、ひとの痛みも分かる大人になっていくのだと思います。こう考えますと、地域の皆様の力がますます重要になってくると言えるのではないのでしょうか。

私どもも、子ども達のため、地域の活性化のため、皆様と手を携えて進んでまいり所存でございます。ご指導のほど、どうぞよろしくお願いいたします。



## 共に手を携えて

足立区青少年課長

下河邊 純子

### 目次

青少年課下河邊課長あいさつ	P1
定期総会	P2~3
JL研修会の様子	P4
JLスーパー研修会	P5

JL 宿泊キャンプ	P6~7
育成者セミナー	P8
スポーツ少年団	P8
編集後記	P8

# 「心豊かで優しい輝く元気な子ども」に 足立区少年団体連合協議会・定期総会

## 足立区からの受託事業の 取り組み

Asis & Tobes  
足立区少年団体連合協議会

会長 山本 輝夫

2019年度の事業方針が承認され令和元年度が始動した。少連協は「悩むより考えよ」と進化を続けている。

上期の幕開けは「ジュニアリーダー研修会」に始まり、「育成者



▲山本会長から委嘱された大塚代表

入門講座」、「ジュニアリーダー研修会夏の宿泊キャンプ」と続く恒例の事業である。

御殿場キャンプ場をベースに異年齢集団行動とコミュニケーション力を学ぶ体験活動は、貴重かつ有益な事業である。受託事業として責任ある行動と成果を挙げることは言うまでもない。

受託事業の重責を謙虚に受け止め、スキームを共有しチームワークを発揮することが重要である。プロジェクトの目的を総括して次年度に生かさねばならない。

160名の青少年が寝食を共有する4日間は意義深い。アウトドア・アクティビティは貴重な経験値になることは間違いないだろう。いま上期の受託事業は少連協の人材育成に繋がり、学びと尊重し合う大きな事業である。少連協の総力を挙げて結束する有効な機会でもある。地少協、学校、教育委員会、関係諸機関の連携と支援が前年を上回る成果に繋がった。

これから下期を、現状と理想の可視化をテーマに活動したい。具体的には思考を深め少連協の実践と改善に務めること。他責思考と自責思考の課題に取り組み、少連協のあるべき姿を追い求めたい。

上期の順調な推移に、見えざるマンパワーの存在が大きい。敬意を表さなければならぬ。全ての関係機関に感謝と御礼を申し上げ、下期に向けてチーム少連協の、新たな一歩を踏み出したい。

令和元年 5月18日 勤労福祉会館（綾瀬ブルミエ第二洋室）において少連協総会が開催されました。

山本会長より令和元年度活動方針が発表され、時代の変化と共に進化が求められている昨今、「心豊かで優しい輝く元気な子ども」を活動の使命として、事業展開していくことが確認されました。

総会には、松野美幸子ども家庭部長、下河邊純子青少年課長、羽住敏久スポーツ推進委員会会長にご出席を頂き議案が承認されました。新常任理事紹介、感謝状、表彰状贈呈と続き、最後に本年度ジュニアリーダークラブ大塚琴音代表

表より力強い抱負が述べられました。

その後、場所を第一ホールへ移し、懇親会が行われ、114名の参加者により区歌「わがまち足立」斉唱、山本会長より総会の報告、令和元年を迎え、足立区の子どもたちのために、より一層一致団結して頑張ろうとの挨拶がありました。

近藤やよい足立区長、定野司教育長はじめ多くの来賓の皆様から温かい励ましのお言葉を頂き終始和やかな雰囲気の中、令和元年度がスタートしました。

(副会長 四宮 淳司)



▲近藤やよい区長をはじめ皆さんで区歌斉唱



【新年度協議会役員】

会長・山本輝夫

副会長・四宮淳司、大林英夫、鈴木春男、鈴木健治

会計・日高佐和子、下島泰則、清水康弘、足立義之

書記・田中加代、市川元一

今井喜代

総務部長・小野田みよ子

調査広報部長・大関英広

事業研修部長・多島三好

育成部長・鹿浜安弘

会計監事・山崎金壽、岩澤明美

【退任役員】

総務部長・林俊二

【新任常任理事】

第二 鶴間昭子

青井 坂田光穂

上沼田 町側尚則

鹿浜 鹿浜安弘

【退任常任理事】

第二 高橋雅代

青井 吉武史洋

上沼田 堀内厚

鹿浜 小林英之

退任されました常任理事の方々には、これまでのご支援、ご協力に御礼申し上げますとともに、今後とも青少年健全育成に対し、少連協活動に変わらぬご支援を賜りま

すようお願いいたします。



▲新任会長の紹介

青井地少協会長に  
就任して

坂田 光穂

5月の総会で会長に就任しました坂田光穂と申します。地域では二ツ家本町会の育成部長や開かれた学校づくり協議会委員を担っています。

さて、青井地少協は青井小学校、加平小学校区域の子ども会で組織しており、おおむね青井中学校区域を活動の範囲としています。今年で設立46年を迎え、昔は3000人を越えた規模から、現在は5つの子ども会を中心とした3

00人弱の組織で、綿々活動継続しています。

親たちの意識も変わり、子ども会の運営は、多分にもれずなかなか難しくなっています。

昔からの「あたりまえ」があたりまえではなくなっていて、今の時代に合った活動へ変化していく必要を感じています。

青井地少協の活動では、育成者の入門講座を工夫して行い、小学校の先生や、子ども会の会長、地元出身の落語家さん等を講師として、実のある企画を実施しています。

これからは、青井小と青井中の連携を強め、地域で一貫して子どもたちを見守り、「青井の子たちは生きる力を持つているな」と、そう言われるよう、知力・体力・折れない心をバランスよく養っていきけるよう、常に青井の子ファーストで団結していきますので、少連協の皆様のご支援、よろしくお願ひします。



少連協退任にあたって

林 俊二

平成24年度より少連協に関わることになりました。短い期間でしたが、在任中は大変お世話になりました。心より感謝申し上げます。わたくしの初めての原稿は常任理事新任あいさつで、キャンプに参加し、自分自身も楽しみながら何かを得ることができればというような内容でした。

子ども達やスタッフのみなさんと数日間一緒に様々なことを体験できたことが思い出に残っております。子ども達より自分自身が一番楽しんだような気がします。ありがとうございました。

少連協は退任となりますが、これからも引き続き地域の子とも達と関わりを持って参りたいと思っております。

最後になりますが、少連協の益々のご発展と会員みなさまのご活躍をご祈念申し上げ退任の言葉といたします。

63名の参加者で始まったジュニアリーダー研修会  
 ワクワクあそび塾  
 舎人地少協

ジュニアリーダー研修会を工夫して  
 学校に泊まるう会  
 第七地少協

初日、6月16日(日) 舎人小学校体育館、開講式には地区対会長、小学校校長、町・自治会長、PTA会長、青少年委員、スポーツ推進委員の参観もいただきました。有澤通講師、小林湧樹助手、ジュニアクラブより地元中学生の小松月奈さんにも協力いただきました。「新しい仲間と仲良くなるう」

数種類のゲームで子ども達を縦横無尽に動かし班作りをしていく技術はさすがという感じです。2回目、6月22日(土) 4小学校の1校が午前中授業参観日だったので、午後からの開講になりました。「新しい仲間と協力して仲良くなるう」

新聞ドーム完成に向け、お互いが細かい点にまで気配りしながら作業をし、最後の爆発後、たくさんのはじけた笑顔には協力できた満足感が満ち溢れていました。3回目、6月23日(日)

「みんなの前で発表したりゲームを指導してみよう」

いよいよ集大成の日です。今までの元気が少し消え緊張気味の



▲育成者による受付準備



▲グループ発表の様子

顔々……修了者55名、宿泊キャンプ希望者13名、次年度受講希望者22名、閉講式後、別れを惜しみつつ再会を約束している姿に引率の育成者も感動したそうです。梅雨時の開催に天候が心配されましたが、雨に降られる事もなく、怪我もなく無事終了できました。(会長 小野田 みよ子)

第七地少協は、6月15、16日に関原小学校でジュニアリーダー研修会を開催しました。今年は、4、6年生の64名の参加児童が、計3回の研修に臨みました。参加者が多いと手伝いのスタッフも多く必要となり負担が増えるのですが、実際に研修を受けている姿を見ると、多くの仲間がいる事で楽しく体験できているように感じられます。特に、今年の参加児童は、ふざけている様子もなく、一生懸命に取り組んでいる姿を見ることができました。そして、この貴重な経験を多くの児童に体験してもらえ、喜んでくれています。特に、6年生は御殿場の野外宿泊キャンプへの希望者が多く、8月の参加を楽しみにしているとの話を聞きました。

当地少協もJL研修会の参加者増の工夫を定例会で協議してきました。そして、学校の協力をいただき、現在のような「学校に泊まるう会」との同時開催形式を取ることにしました。

子ども達は、お米とカレー用の



▲ジュニアリーダー研修会スタート

野菜を参加費代わりに持ち寄り集合します。災害用ベンチを使つての飯盒炊飯と大鍋にカレーを作ります。スイカ割り、夜の学校探検などを楽しんだ後、体育館で就寝(ほぼ雑魚寝状態ですが)です。興奮からか、なかなか寝付けませんが、翌朝は生放送のラジオ体操から活動が始まり、朝食後に研修会に参加します。もちろん、泊まるう会だけの参加も受け付けていますが、ほとんどの児童が研修会との同時参加を希望しています。事前の打合せ、費用捻出等大変なことも多くありますが、PTAの皆さんや多くの方の支えをいただき地少協としての活動が行われています。(会長 川下 勝利)

# スーパー研修会で学ぶ

(指導者クラブ 関口 昌恵)

スーパー研修会の「野外調理とテント設営の講習」では日常よりも少し不便な環境で、実際にテントを立てて食事を作りました。見たり聞いたりするのは違い実際にやってみるとテント設営も調理も一人では困難な作業になります。一人でもできなくはないのですが、時間と手間は大変なものになります。ここで力を発揮するのが「マンパワー」です。

仲間と力を合わせ、一人では、難しい事でも、お互

いに協力し、どうしたら上手くできるかを一緒に考える。講習会では「仲間と力を合わせる事」「考える事」を学びました。

スーパー研修会では、「実践力」「思考力」「共生力」身につけるためのさまざまな活動をしています。始めは「嫌だ」「大変そう」と思うかもしれませんが是非参加してみてください。

## 今！スーパー研が熱い🔥

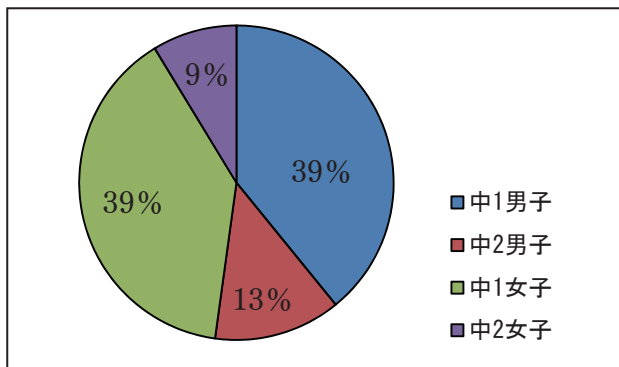
小学校4.5.6年生が受講できるジュニアリーダー研修会を卒業するとジュニアリーダースーパー研修会が受講できます。令和元年度は、49名が参加しました。

今までのジュニアリーダー研修会開催の地域の方々、講師、行政からの告知が実を結びジュニアリーダースーパー研修会の受講生が増えています。

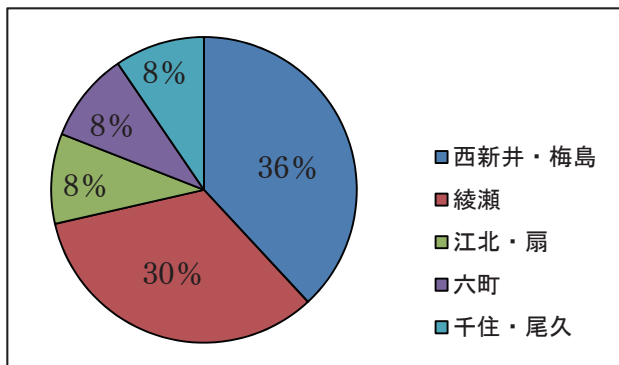
そこで、その魅力を子ども達から聞いてみました。

(アンケート回収率65%)

学年別



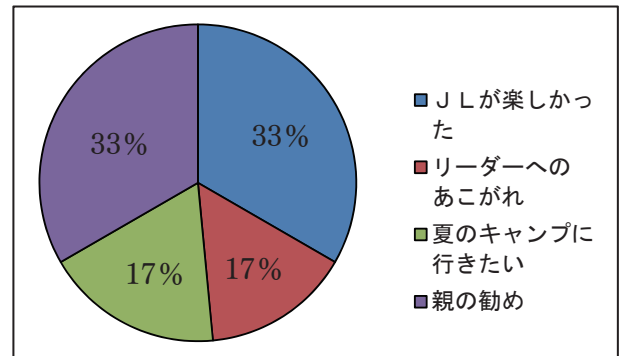
エリア別 (最寄り駅)



区内 エリア・男・女偏ることなく、部活動の合間をぬってスーパー研修に参加しているようだ。

参加者側からスーパー研はどのように映っているのだろうか？

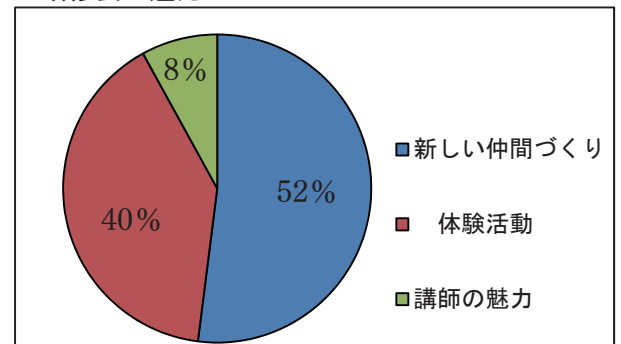
入会の動機



夏の御殿場キャンプ参加目的だけではなく、保護者の勧めもあるが、小学校で行われたジュニアリーダー研修会が楽しかったという意見が多く、開催者、講師にとって嬉しい回答が返ってきました。

(因みに御殿場キャンプ参加者は、半数でした)

研修会の魅力



同じ課題に向かい互いに認め合い、高め合う仲間作りを楽しんでいる参加者が半数を超えている。

体験活動をしながら、地域学年を超えてよい関係が構築されつつあるようだ。

**You can do it!**



「TTP宣言」

● J-L 宿泊キャンプ

今年も区内在住の小学5年生から中学3年生まで138名の研修生が宿泊研修会に集まりました。また、本年度は区内23会場でジュニアリーダー研修会を開催し、約650名の小学4年生〜6年生が受講しました。

本年度は187名の小学生がキャンプに申込をしていただきました、残念ながら施設の都合37名が参加できませんでしたが、その37名の分まで充実したキャンプにしようとスタッフ一同心がけていてまいりました。

今回はキャンプ初参加の5年生・6年生が参加したコース「ベシクコース」と、「前年度参加した6年生・中学生対象の「アドバンスコース」の2コースに分かれ、4日間を過ごしました。

今年ジュニアリーダー部に「TTP宣言」というものをさせました。TTPとは「徹底的にバクれ！」の略です。トリンプの元社長吉越浩一郎氏の名言の一つです。他人・他社の良いところを真似しよう。という意味です。同学

年のリーダーでもいいし、先輩リーダーでもいいから自分にないものが一つでもあったら、それをまづ真似しよう。と中高生リーダーに伝えました。ほかのリーダーの行動をよく観察すること、それが逆に研修生たちに接する時に役立つのです。リーダーの一挙手一投足を研修生たちは見ています。そしてそれをTTPされます。

実際に見られているという意識が自分を成長させてくれる妙薬になるものです。このサイクルが約50年前の小学生が楽しんだゲームも今の小学生も楽しめるのです。4日間の短い時間でしたが、138名の研修生と27名のリーダーが大きく成長できたのは、このTTPがあるからではないでしょうか。我々の行動もリーダー達に常に見られているかもしれません。

(鹿浜 安弘)



▲キャンプファイヤー  
～燃えろよ燃えろ～



▲各班の発表風景



▲流しそうめん ～すくえるかな？  
(アドバンスコース)

**ベーシックコースとは？** キャンプ参加1年目の子ども達  
(キャンプの基本、かまど、テント設営などを初めて学びます)

**アドバンスコースとは？** キャンプ参加2年以上の子ども達  
(スーパー研で、かまど、テント設営は、学んでいるので、御殿場キャンプでは、炊さんもベーシックより多く、縁日の準備もしました)

初めての子ども達から憧れられるような？存在？を目標に4月から頑張っていました。



キャンププログラム 8/1~8/4							
最終日		3日目		2日目		初日	
ベーシック	アドバンス	ベーシック	アドバンス	ベーシック	アドバンス	ベーシック	アドバンス
起床 朝の集い (荷物を持って) テント撤収、備品改修 朝食 (非常食) フィールドワーク  昼食 退所式 国立中央青少年交流の家 発 ギャラクシティ 着 解散式	起床 朝の集い 朝食(ホットサンド) 選択プログラム (富士さんぽ・洞窟探検・ピザ作り) 昼食 文化祭   みんなで発表会 夕食 キャンプファイヤー  シャワー  係会議・班会議 就寝	起床 朝の集い 朝食 (カートンドック) ウォークラリー   班対抗ゲーム  昼食づくり 昼食(そうめん) フリータイム   縁日準備 御殿場縁日 片付け   シャワー 係会議・班会議 就寝	島根小学校集合 出発式 国立中央青少年交流の家 着 入所式 昼食 テント講習・設営 かまど講習  夕食作り  シャワー   シャワー 係会議・班会議   班会議 就寝				

参加したこどもたちに聞きました！

Q1 来年もまたキャンプに参加したいですか？

参加したい	85%
参加したくない	0%
わからない	15%

Q2 「参加したい」と回答した理由は？

全部が楽しかった	34%
友達ができた	16%
キャンプが好き	15%
炊事が楽しい	14%
ジュニアリーダーになりたい	12%
班長をやってみたい	6%
その他	3%

保護者の方に聞きました！

Q1 キャンプ後のお子様の様子に変化はありましたか？

変化があった	61%
変化はなかった	20%
わからない	19%

Q2 「変化があった」と回答した方で、どのような変化がありましたか？

コミュニケーション能力が向上した	27%
積極的になった	25%
料理など家事を手伝うようになった	22%
自分で身の回りのことをできるようになった	18%
その他	8%

子ども会育成者セミナー  
ちから  
 「挨拶のバカ力！」  
 令和元年6月30日(日)

今回は、例年と違い、落語家で大正大学教授の「金原亭世之介」氏をお招きし講演形式で行いました。最初に古典落語「へつつい幽霊」を一席披露により受講者の気持ちをほぐして頂きました。

その後、ステージを降りて本題のテーマ「挨拶のバカ力！」を参加者に協力して頂き「ことばの力」で体にとの様な変化が見られるか試され、嘘でしょうと思う変化でした。言葉による力で身体の変化や考え方に及ぼす事を面白おかしく講演して頂きました。

人間の力は無限大で外部誘導により能力・言語・自己誘導を起し、力を引き出す事が出来、更なる能力を上げる為には、ほめて上げるという事です。常に目線を上げる事によって話を聞くこととする行動や叱つたらほめることが大切で、無理に誘わないで楽しい事や興味を持たせる事が、子どもを見守り、子ども会を発展・維持することなどを講演で学びました。

(事業研修部部長 多島 三好)



▲心身の調子を判断できる「オーリングテスト」の様子



▲講師 金原亭世之介師匠

少連協とスポーツ少年団

昭和37(1962)年6月、スポーツ少年団は、オリンピック東京大会開催を控え、オリンピックの意義を普及啓発するオリンピックク・ムーブメントとして、また日本体育協会創立50周年記念事業として、「地域の子どもたちにスポーツすることの喜びを提供する」、「スポーツを通して青少年のこころとからだを育てる組織を地域社会の中につくる」という理念のもと創立されました。組織の本部は日本体育協会に置かれています。

その後、東京都スポーツ少年団が昭和38(1963)年4月に創立され、同年6月、オリンピック東京大会前年祭の記念パレードに参加しました。足立区スポーツ少年団は、昭和40(1965)年10月に創立となりました。足立区少年団体連合協議会には、昭和41(1966)年少連協創立と同時に加盟し、当時は男児72名、女児21名計93名と指導者数名の4団体でした。

現在は、野球、サッカー、バレーボール、空手道、ミニバスケッ

トボールの5競技種目27団体、子供800名、指導者220名程度で推移しています。

なお、東京都スポーツ少年団は現在38区市に設置され、団体の8・5%、子どもの10・8%、指導者の8・3%を足立区が占めて、活動しています。

(スポーツ少年団熊澤 秀弘)

編集後記

オリンピック、パラリンピックまで後一年！と盛り上がった暑い夏も終わり、朝晩が涼しく感じられる秋の季節となりました。

少連協では季節ごとに様々な行事がありますが、前半のメインは「夏の宿泊キャンプ」です！

64号では、3泊4日でたくましく成長していく子どもたちの様子をお伝えしています。是非、じっくりご覧下さい。

